

令和7年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	135	48	40	6.2	6.0
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	466
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

令和7年度 喜連中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

<div>【成果と課題】</div> <div>○全国学力・学習状況調査</div> <div><国語> 平均正答率では全国平均を6.3ポイント、府平均を4.0ポイント下回り、無回答率では全国平均を0.5ポイント、府平均を1.0ポイント下回っている。領域別での平均正答率では、 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項で全国平均を3.0ポイント、府平均を2.7ポイント下回っている。 A 話すこと・聞くことでは全国平均を10.1ポイント、府平均を7.6ポイント下回っている。 B 書くことにおいて全国平均を6.2ポイント、府平均を3.9ポイント下回っている。 C 読むことでは全国平均を2.8ポイント、府平均を1.7ポイント下回っている。 <数学> 平均正答率では、全国平均を8.3ポイント、府平均を7ポイント下回っている。無回答率では全国平均を4.6ポイント、府平均を6.1ポイント下回っている。領域別の平均正答率では、 A数と式では全国平均を9.3ポイント、府平均を8.2ポイント下回っている。 B図形では全国平均を7.2ポイント、府平均を6.9ポイント下回っている。 C関数では全国平均を7ポイント、府平均を5.1ポイント下回っている。 Dデータの活用では全国平均を7.7ポイント、府平均を4ポイント下回っている。 <理科> 平均正答率では、全国平均を4.7ポイント、府平均を1.9ポイント下回り、無回答率では、全国平均より2.1ポイント、府平均を3.3ポイント下回っている。領域別での平均正答率では、 Aエネルギーを柱とする領域では全国平均を3.9ポイント、府平均を2.8ポイント下回っている。 B粒子を柱とする領域では全国平均を7.2ポイント、府平均を3.6ポイント下回っている。 C生命を柱とする領域では全国平均を4.8ポイント、府平均を6.8ポイント上回っている。 D地球を柱とする領域では全国平均を6.3ポイント、府平均を2.5ポイント下回っている。</div> <div>【今後に向けて】</div> <div><国語> 今回の学力調査では、「A 話すこと・聞くこと」が全国平均から著しく下回っていることが明らかになった。特にその中でも「聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する」・「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する」の問題では、全国平均から10パーセント以上離れているため、発表等の機会を増やし、改善をしていきたい。 一方、「表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」・「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる」などの問題では府近づいているため、1・2年と継続して行ってきた意味調べの効果が出ているのではないかと考えられる。 <数学> 無回答率は全国平均も府平均も下回っていて、なんとか解こうとする努力は見受けられるが、正答率に繋がっていないため、まずは数と式の復習からはじめていく。マークシートの判別不能の問題数が多かったため、マークをきちんと塗りつぶすところから指導が必要と感じた。 <理科> 今回の学力調査の結果をみると、Aエネルギーを柱とする領域で、全国平均・府平均を大きく下回っていることが確認できた。この領域では、特に「【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する」問題において、正答率が府平均の6割弱程度と非常に低くなっていた。これは、実験を行った際に、結果に基づく考察をさせる機会が少なかったことに起因すると考えられるため、今後の実験では、結果に基づく考察を生徒に考えさせる機会を設けることで対策していきたい。</div>
--

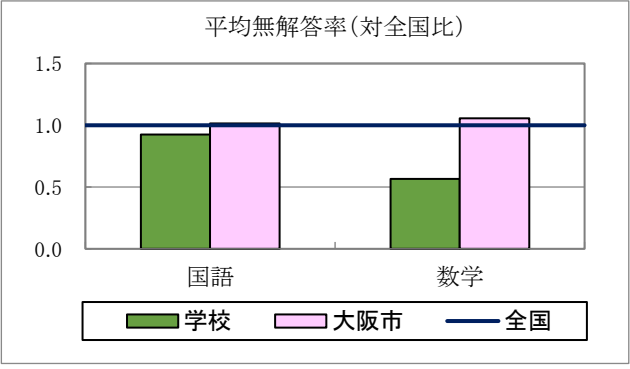
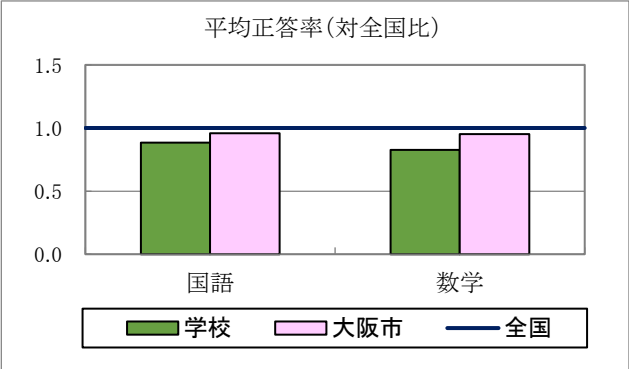
令和7年度 喜連中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	48	40
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	6.2	6.0
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

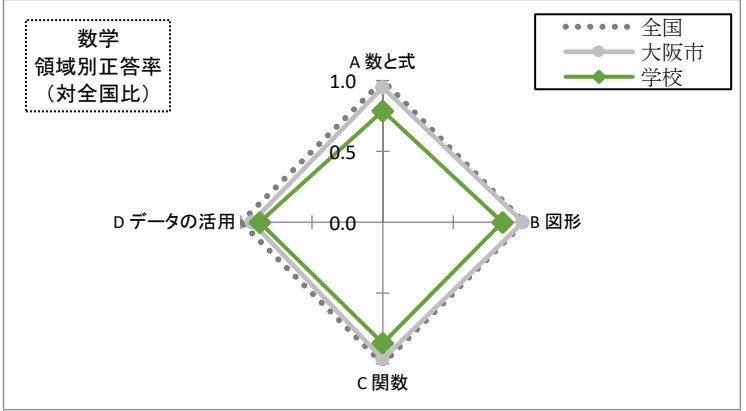
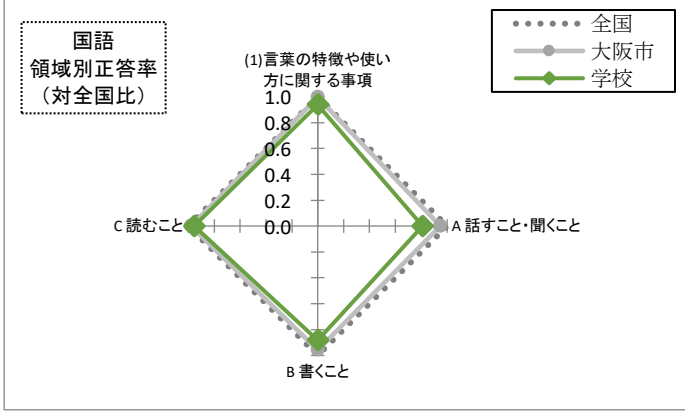
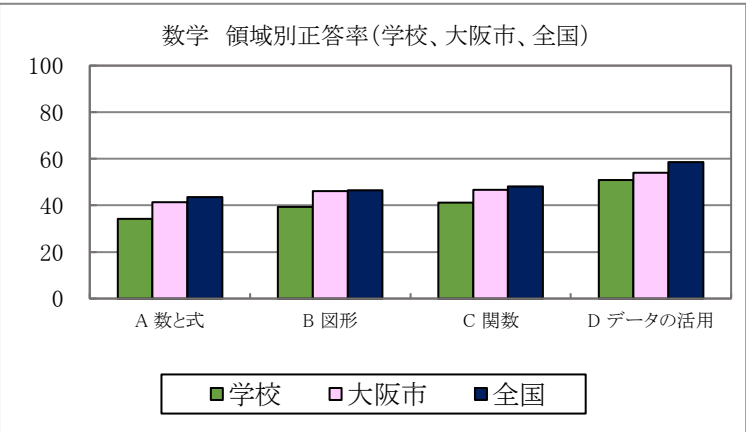
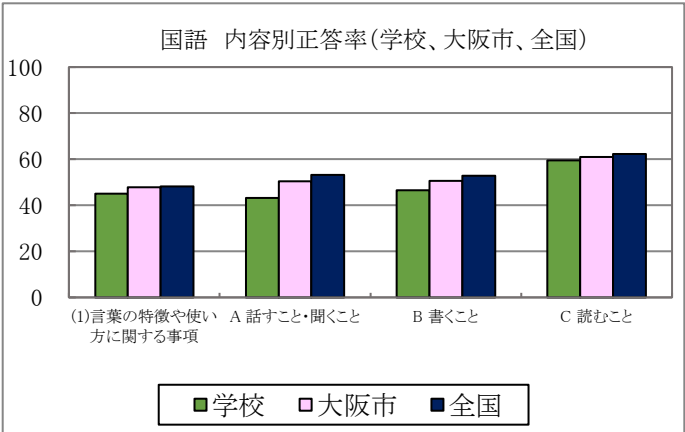


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	45.1	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	43.1	50.4	53.2
B 書くこと	5	46.6	50.6	52.8
C 読むこと	3	59.5	61.0	62.3

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	34.2	41.4	43.5
B 図形	4	39.3	46.1	46.5
C 関数	3	41.2	46.6	48.2
D データの活用	3	50.9	54.0	58.6

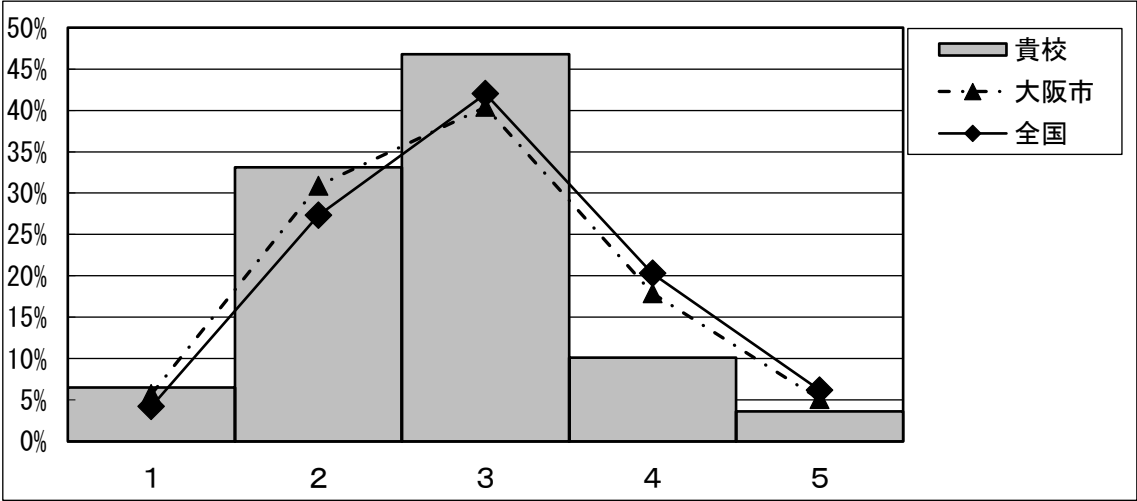
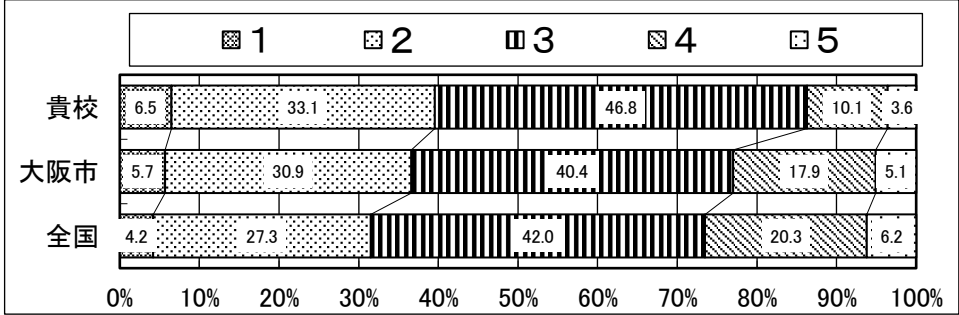


令和7年度 喜連中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	466
大阪市	489
全国	503



令和7年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

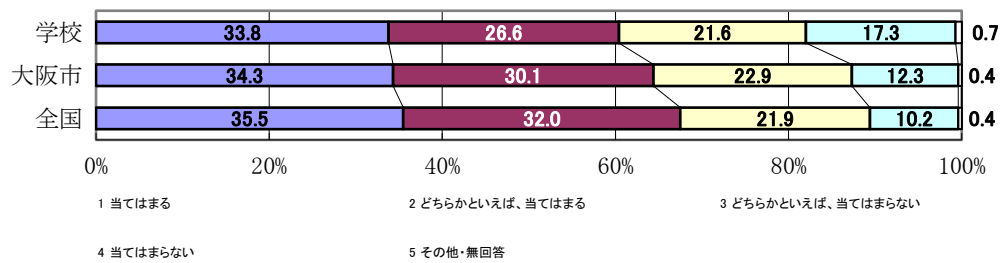
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

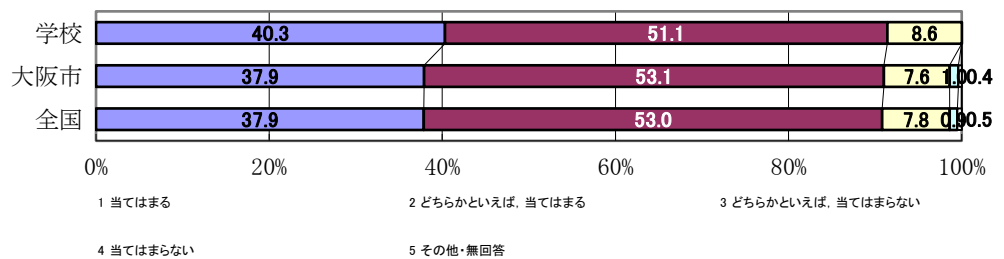
7

将来の夢や目標を持っていますか



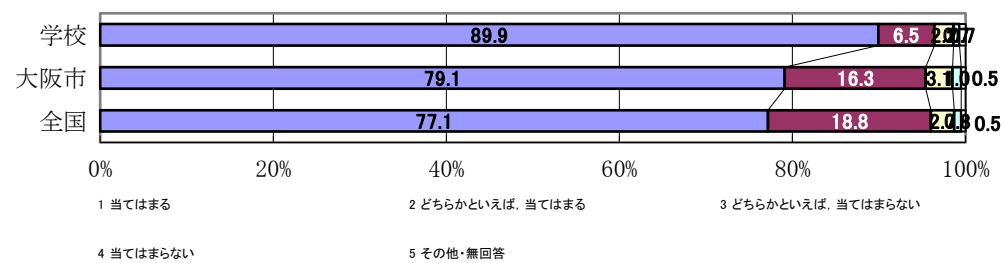
8

人が困っているときは、進んで
助けていますか



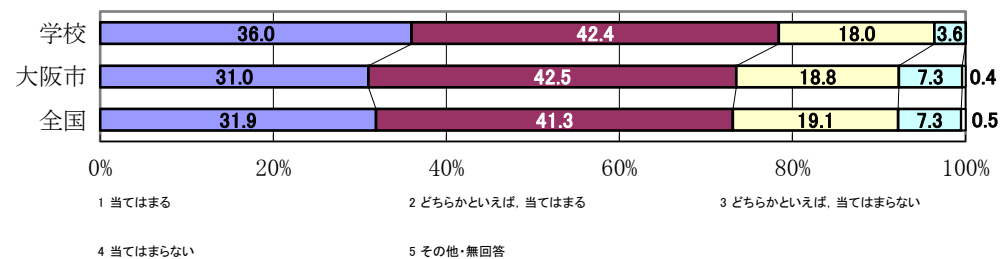
9

いじめは、どんな理由があってもい
けないことだと思いますか



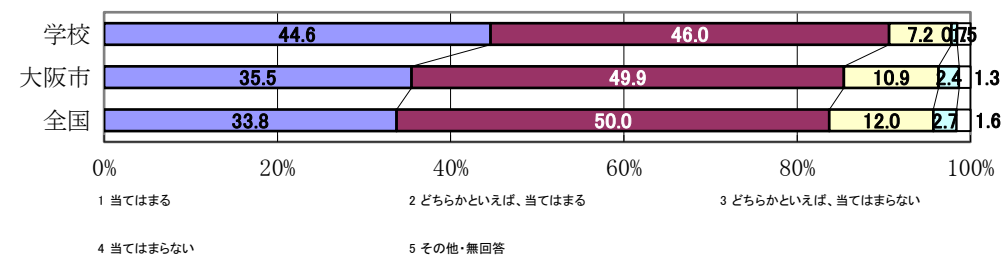
10

困りごとや不安がある時に、先生
や学校にいる大人にいつでも相談
できますか



38

先生は、授業やテストで間違
えたところや、理解していない
ところについて、分かるまで教
えてくれていると思いますか



令和7年度 喜連中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より



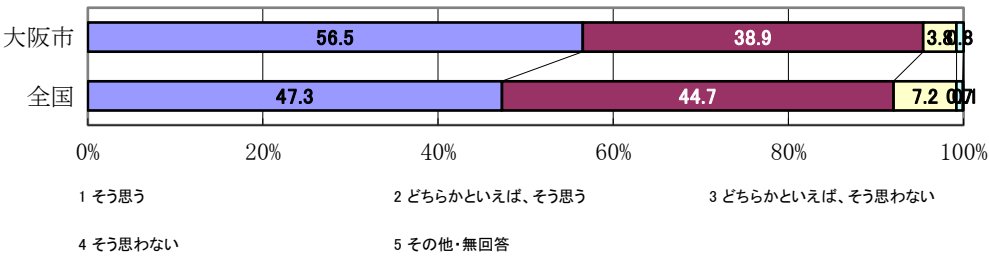
質問番号

質問事項

8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

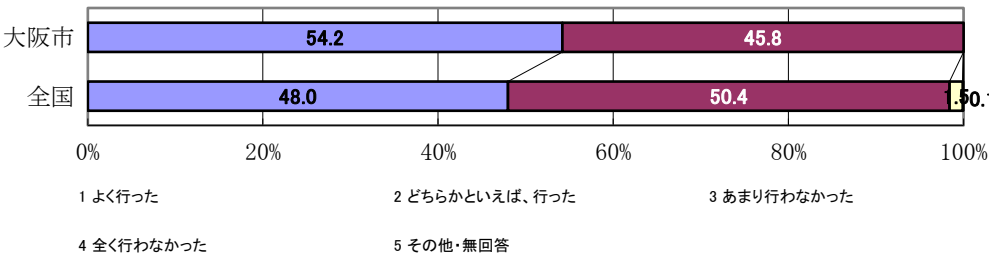
学校 「そう思う」を選択



9

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

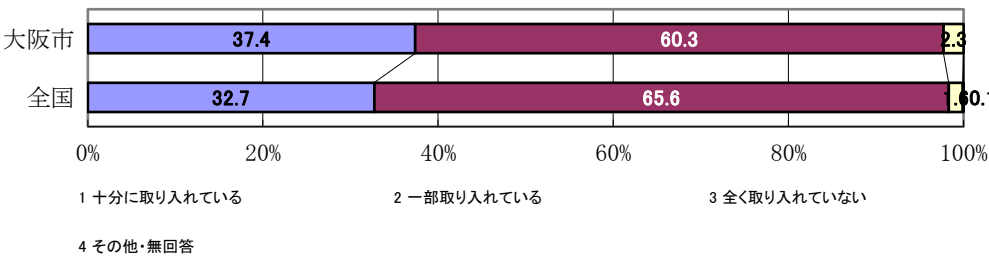
学校 「よく行った」を選択



13

ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか

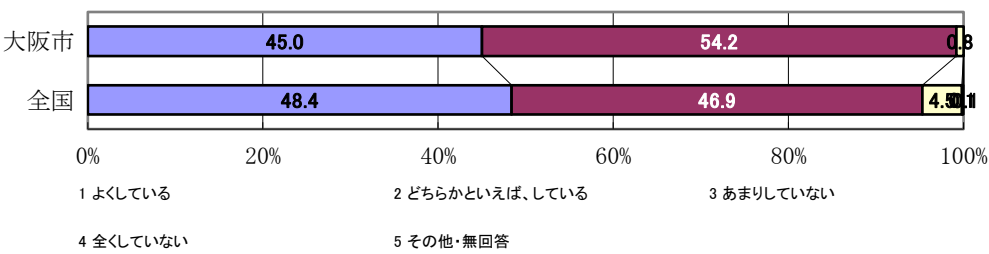
学校 「十分に取り入れている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



21

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

学校 「そう思う」を選択

